

第 78 回小田原市美術展覧会

【前期】

洋画・日本画・彫塑

～受賞作品～

審査員講評



第 78 回小田原市美術展覧会 洋画・日本画・彫塑 審査員講評

◇審査員（50 音順）

洋 画：飯沼 重信、磯 英海、荻野 幸子、柏木 隆一、白須 武子、田嶋 佳子、
藤澤 徳子、古屋 京子

日本画：庄野 満子、中居 長子、夏目 日出男

彫 塑：梅村 正美、渋谷 武美、根津 憲一

【洋画】

○市長賞 作品名：浪漫求め～富士のワゴニア～ 作者：露木 寛之

目を引く作品である。富士山の五合目に放置されていたジープのワゴニアが撤去されるにあたり、作者の心情が画面一杯に溢れている。この溢れた心情が説明を越えて見る人に迫ってくる優れた作品と言える。画面の構図、アクリル絵の具の技法などもすばらしい。車のネジ、小石、草にいたるまで浪漫を求める心意気が宿っています。次回も期待したい。



○市議会議長賞 作品名：踊らにゃソンソン！ 作者：佐藤 良克

阿波踊りを楽しむ人々が力強く描かれた作品である。右の男性陣、左の女性陣の対比が、2つのキャンバスをつないだ画面を成功させている。時間をかけた油絵の具の筆使いを見るにつけ、絵を描かなきゃソンソン！人生は楽しまなきゃソンソン！という事に発展してしまいそう。それが真にこの作品の見ごたえのある所以である。この作品を見なきゃソンソン！です。



○教育委員会賞 作品名：新宿 CityLights 作者：若林 やすと

『生きる』を新宿の夜を題材に追求している。現実の風景、空想の風景をミックスさせて、ぬかりなく仕上げた完成度の高い作品である。ビル、ショーウィンドウ、人物などの画面構成のすばらしさは、作者の絵画を追求する日常性の賜物である。この作品の前に立ち、時間をかけて見ると多くの発見があります。作品に挑む姿勢を学ばせて頂きました。



○奨励賞 作品名：春爛漫 作者：石井 喜美子

チューリップ畑を描くことで春爛漫を表現している。この作品の魅力は何と言っても素直な表現と言える。しかし、その素直さの中にしっかりと計算が働いている。近景・遠景の表現は、なかなかのもの。具体的には、チューリップの群れの表現。建物、車、山を描く事で花畑をより身近なものにしている。皆さん、ここを散歩してみたいと思うでしょう。



○奨励賞 作品名：白い花とバラの咲く家 作者：西海 美子

なにしろ綺麗、そして爽やかな作品である。中央画面下の白い花の群れ、左上の赤バラ、窓による画面構成が成功している。油彩絵の具の使い方が慣れているのを見ると長い年月、絵画を愛好しているのが分かります。植物を愛し、植物に語りかけているとこんな作品を描けるのだと思いました。植物の描き方のひとつのお手本になる作品と言えます。



○佳作 作品名：猫パンチ 作者：古川 直子

「かわいい〜」。2匹の猫ちゃんは丸々として元気一杯。背景の色分けも見事です。紙風船も効果的。油彩絵の具による重厚な画面はどっしりと安定している。作者はテーマを明確に持って作品を描いています。この緩みない制作姿勢が作者の強みでしょうか。会場をご覧下さった方々はこの作品の前で「笑み」が、こぼれたのでは！



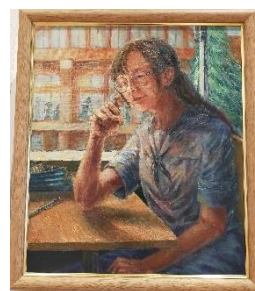
○佳作 作品名：秋の訪れ 作者：石野 美智子

美しい水彩画である。秋の訪れを心で描きながら画面に投影できる画力は見事。右の木、中央の黒い建物が背骨になって引きしめている。水彩絵の具を愛し、楽しんでいるからこそ、この様な作品が生まれる。近くで細部まで見ても決して飽きることはない。水彩絵の具を使用している方々は、沢山の事をこの作品から学ぶことができる。



○高校生奨励賞 作品名：休み時間 作者：近藤 千華

高校の教室、休み時間の女生徒のポーズを描く事で画面を迫及している。なにしろ時間をかけ、真面目に描いている姿勢は作者の充実した高校生活を感じさせる。油彩の筆使い、背景の描き方などを見るにつけ、考えて考えて描いている。多くの人は高校時代を思い出し、ペンケースも良く描けていると思うのでしょうか。市展へのご出品ありがとうございます！！次回の作品も期待しています。



【日本画】

○市長賞 作品名：厳冬 作者：加藤 時雄

一目見るなり、厳しい冬の空気が身に迫ってくるような自然の再現の巧みに魅了されました。雪の下の大木や岩が見事に表現され、谷間の水の小さなささやきが聞こえてくるようです。奥ゆきのある冬木立も見事で、これ迄、何度も受賞された実力が存分に発揮された、市長賞にふさわしい作品になっています。



○市議会議長賞 作品名：緑の中で 作者：石井 まゆみ

草むらでこちらを見上げる猫の愛らしさに思わず抱きたい意欲がわいたのでは、と思わずにられない作品です。やわらかな毛の下の身体の温もりが伝わってきます。その猫の茶系の色を活かす草むらの緑。草の状態も克明に観察されていて、ほのぼのとした良い作品になっています。



○教育委員会賞 作品名：雪の法然院 作者：相田 吉乃

墨で表現された雪の世界。まさにその雪の白さをひときわ強調された事により、自然の木々に積もった雪との違いも鮮明で、道路の雪どけのぬかるみに感動してしまいます。階段の表現も素晴らしく、長年の習練を感じさせられます。次の作品を楽しみにしています。



○奨励賞 作品名：皇帝ダリア 作者：翠芳

バックの色のグラデーションも素晴らしく、岩絵具を見事に使いこなした日本画らしい作品です。個々の花の配置と色のバランスも良く、葉の色が花をひきたて、動きのある生き生きとした作品になっています。より大きな作品に挑戦して下さいよう期待しております。



【彫塑】

○市議会議長賞 作品名：ナニカナ？ 作者：石井 まゆみ

何かに興味を示し、台に飛び移った猫の姿に、作者の観察力の高さと猫への愛情を強く感じさせる作品です。造形的にも左右の足の伸びやかさ力強さを対比させるポーズをとらせることで、作品に動きを与えることに成功しています。猫本体の素材と木の台の組み合わせも本来の素材の持つ魅力を引き出しています。作者の安定した表現力と本作品の完成度に市議会議長賞としての意義があると判断しました。

